

顛末書

説明会	中野市統合学校給食センター建設に係る地域市民説明会
日時	令和8年1月30日（金曜日） 午後7時～午後9時10分
会場	中野平中学校 武道場
参加者	<ul style="list-style-type: none">・一般参加者 16名・中野市 7名 教育長、教育次長、学校教育課長、学校給食センター所長、 学校教育課施設係 2名、都市建設課建築住宅係 1名・設計業務受託事業者 1名
次第	<ol style="list-style-type: none">1 開会2 あいさつ3 説明 (1) 基本設計概要について (2) 旧平野保育園解体工事について (3) 今後のスケジュールについて4 質疑応答
説明及び 質問内容	別紙のとおり

市民説明会 会議録

1 開会（教育次長）

2 あいさつ（教育長）

3 説明（学校教育課長）

（1）基本設計概要について【資料 1-1、資料 1-2、資料 1-3】

（2）旧平野保育園解体工事について【資料：配置図】

（3）今後のスケジュールについて【資料：事業スケジュール】

資料に基づき説明を行いました。

4 質疑応答

はじめに基本設計の概要に対してのご意見とご質問をお受けし、その後に事業全体の内容に対してお受けすることをアナウンスしました。

参加者 1	<p>30 億円を使って新しく給食センター作ることは反対で、既存の施設をうまく活用してもらいたいという立場で質問する。</p> <p>30 億円を使って給食センターを新設統合することの根拠は、効果、建設費とランニングコストを合わせた効果にあると思う。今日それが出てきてないのは大変残念だが、市のホームページで公開されている。</p> <p>ただし、あれは完全に 30 億円を使った方が有利であるということを用意的にリードするための試算であり、決して中立の立場でされた試算ではない。その根拠について述べる前に、一つ質問したい。5 年後の令和 13 年、小学校、中学校の生徒は何人になるか。</p>
中野市	<p>既に出生された方の推計の数字ですが、小学校が 1,413 人、中学校が 951 人、合計で 2,364 人になります。</p>
参加者 1	<p>既に出生された方々の実績なので、これは変わらないだろう。したがって、3,300 食の給食センターは、5 年後には過大な設備となる。</p> <p>また、ランニングコストについてだが、新設統合した場合、ランニングコストが 65 年間で 21 億円、22 億円と試算されている。一方で改修した場合は 35 億円と試算されている。</p> <p>ただし、これは大変意図的に含まれた数字だ。改修した場合に、子どもの数が 2,300 人になるだろうが、1,500 人になるだろうが、2つ</p>

	<p>の施設をずっと運営するという前提で試算されている。</p> <p>先刻回答があった通り、5年後には2,300人になる。したがって、既存の施設のうちどちらか一方で十分足りる食数になるはずだ。つまり、5年後から15年後までの10年間は、片方だけを運営すれば十分で、こんなにランニングコストはかからない。私の試算では23億円で済むはずだ。</p> <p>したがって、現在の施設を運営した場合のランニングコストは23億円、新設した場合は22億円となり、ほとんど変わらない。</p> <p>さらに、15年後に改修した場合には、30億円の投資をするということになっている。これは15年後に3,300食の新しい給食センターを30億円かけて作るという前提だが、その時点では多分1,500人から1,800人になっているはずだ。決して3,300食の給食センターを30億円かけて作る必要はない。</p> <p>したがって、これらを修正すれば、改修した場合であっても、50億円程度で済むはずだ。つまり、新設総合したときの60億円よりも改修した方が10億円ほど安くなる。</p>
<p>中野市</p>	<p>まず試算についてですが、現時点で市が想定するコストや、建設にかかる費用について検討し事業費を算出、比較したものを議会に示し、ホームページに公開したものです。</p> <p>先刻、生徒数を回答しましたが、給食センターの食数は、生徒数に教育職員、学校に勤める職員の数も加算するので、「回答した生徒数の給食を作るだけでよい」というものではありません。</p> <p>また、15年後の建設または改修は、現時点で想定しうるものを、積算しています。規模も多少の違いは想定されますが、検討し概算で示しました。</p> <p>建設時点と数年後と比較すれば生徒数が減少しますので、建設時点から数年後には施設が過大になるかもしれませんが、現在必要な食数をつくるために3,300食の施設を作る方針です。</p> <p>また、2つの施設を継続することで、過大に掛かるランニングコストも当然ございます。2つの施設を継続した場合に新設した場合と比べて1年間で約9,000万円多く費用が掛かることも考慮して、この時点で統合した方がよいと結論を出したものです。</p>
<p>参加者 1</p>	<p>生徒数プラス300食ぐらい必要というのは確かにその通りだ。</p> <p>しかし、今まさに判断するのではなく、5年後10年後に生徒数を見極めて、その時点で判断をすればよい。</p> <p>今まさに30億円を中野市の財政として固定化すること自体が、</p>

	愚の骨頂だ。先が見えているのであれば、それをもっと見極める。手元に2つ使えるものがあるのであれば、それを使えばよい。どうしてそういう発想にならないのか。
中野市	<p>教育長があいさつで述べたとおり、建物の他に調理機器も老朽化が著しく進んでおり、修繕を行いながら稼働している状況です。</p> <p>年々修繕費も嵩んでおり、一部の機器は壊れた場合には部品が無いため修理できず、機器を入れ替えなければいけないものも出てきています。</p> <p>そういった大規模な修理や機器を入れ替える際に、給食を止めなければならない事態も想定できますが、そうすると、子ども達に給食を提供することができなくなり、代替のものを確保しなければならないという問題も生じます。</p> <p>そういった事態に陥る前に新たな給食センターを建設したいという思いが強くなります。</p>
参加者 2	資料 1 について、中野市道からの入口の道幅は何mか。
中野市	境界立会いをしたうえで4 m確保しています。
参加者 2	その道路の隣地は、市の所有ではないのか。
中野市	市の所有ではありません。
参加者 2	<p>大きな工事車両が出入りする。給食の配送車がすれ違うこともできない。4 mの道幅は狭い。</p> <p>吹き抜け部分の天井高は何mか。</p> <p>以前「現在の施設は高い所は手が届かずカビが生え、保健所から指摘されている」と説明があった。新設する施設も同様なのかと思い、質問した。</p>
中野市	吹抜け部分をできるだけ掃除がしやすい素材を選び、より衛生的な厨房になるように設計の際に要望しています。天井にカビが生えることがないように工事を進めることができますと思います。
参加者 2	吹き抜けの高さはどのくらいか。
設計業務 受託事業者	一番高いところで約7 mになる見込みです。
参加者 2	天井が掃除できるような設計か。
設計業務 受託事業者	そのとおりです。まずは、できるだけ掃除が必要ない素材を選びます。しかし、掃除が必要な時期は必ず来るので、そのときは給食の提供時期を外して掃除します。
中野市	天井のカビについて、高所は掃除できないという指摘があり、

	<p>設計事務所からできるだけ掃除がいらぬ素材を選定するという説明がありました。</p> <p>中野市からは、カビの発生原因と対策について説明しますが、カビ発生の原因は空調設備にあります。食器を洗浄する際に発生する大量の湯気を外部に排出することができず、カビが発生しています。これに対して、最新の空調設備を導入することでカビが発生しにくい環境を作るように設計しています。</p>
参加者 2	<p>同じようなことで、また建て直すことがないように望む。</p>
参加者 3	<p>参加者 1 氏の質問で、食数について 5 年後には生徒数が 2,364 人、教職員の数が 300 人という説明があり、3,300 食のセンターは過大な施設になるという質問だった。それに対する回答として、現在の食数を賄うための規模のものを建てたいということで、過大になるのは仕方ないという回答だったが、納得できない。</p> <p>今、子どもの数が減っていく状況があり、それを考慮してセンターの規模を決めてほしい。</p> <p>市議会で給食センターについての議論の中心はコスト面や、老朽化の面であり、場所の選定についての議論はなかった。場所の選定については、市から旧平野保育園跡地が提案されてきた。敷地面積を比較すると、現在の南部給食センターが 4,750 平米、旧平野保育園跡地が約 4,000 平米と説明されており、敷地は狭くなり、施設は大きくなり、窮屈に感じる。また、参加者 2 氏が指摘したように道路も狭く、交通の面でも心配だ。</p> <p>そこで、場所の選定時に、旧平野保育園跡地以外に旧中野高校校舎跡地やグラウンド等を市で検討したようだが、それでも旧平野保育園跡地が第 1 候補となった理由を説明してほしい。</p> <p>旧中野高校跡地は防災広場もあり、災害時に給食を提供できる施設があれば、災害時も活用できるのではないか。そういうことも考慮して、場所の選定をしてほしい。</p> <p>また、都市計画法では給食センターは工場に分類され、基本的に工業地域にしか建設できない。そこで、防音壁の設置の他に臭い対策は説明がなかったが、工場施設に該当するので音に配慮が必要になる。</p> <p>そういった施設を住宅エリアに建てるのではなく、旧平野保育園の跡地は分譲して住宅地にしてはどうか。売却すれば市の資産が減り、公共施設の統合を進める総合計画とも合致する。</p> <p>その点でも、このエリアは住宅地として分譲し、旧中野高校跡</p>

	<p>地を有効活用することが資産の活用方法として適切ではないか。</p>
中野市	<p>現存する2つの給食センターは老朽化が激しく、いつ給食を作れなくなるかわからない状態であり、早急に新しい給食センターを立てる必要があります。そういった状況なので市の所有地で選定を進めました。また、市の所有地なので、土地を購入する必要がなく財政的な負担も軽減されます。</p> <p>旧中野高校の跡地は工場を建てることはできません。一方で、旧平野保育園跡地は用途地域に制限がありません。</p> <p>また、旧平野保育園跡地は給食を配送する、また、人を雇用するうえで、立地条件が良好です。既存施設の電気、上下水道等のインフラが整っている点も適しています。</p> <p>そういったことを考慮し、旧平野保育園跡地を選定しました。</p>
中野市	<p>音や臭い対策について説明します。</p> <p>建設中は機材の搬入や車両の移動等で音が発生します。ご迷惑をおかけしますがご容赦いただきたいと思います。</p> <p>防音対策として、センター建物の壁材は防音効果が優れたものを設置します。また、屋外の機器から生じる音は、防音壁を設置して対策します。</p> <p>臭いの対策は、空気ダクトを南向きに配置し、北側や西側の住宅に向かないように対策します。</p>
参加者 4	<p>20年前に給食センターができた頃、学校に勤めていたので、そういう立場で発言する。</p> <p>2005年に食育基本法が制定され、学校給食に対する考え方が大きく変わった。栄養士は栄養教諭となり、学校給食は食育として学校教育の中に位置づけられた。</p> <p>そして、中野市の北部学校給食センターは2006年、南部が2007年に竣工した。この2つの給食センターは、食育を目指して作られた給食センターだったと認識している。</p> <p>本来、学校給食は作る人の顔が見える自校給食が理想だが、その理想に近づけるために2階から調理場が見える設計になっている。レクチャールーム等も整備し、給食が作られる過程の説明を聞けるようになっていた。この仕様は、近隣の市町村では羨ましがられるような、進んだものだった。子ども達はとても喜んだ。だから、このセンターをまだ使い続けてほしい。直せるところは直せばいい。とても立派な給食センターだ。</p> <p>また、新しく作る給食センターの耐用年数は分からないが、20</p>

	<p>年後 25 年後には、時代遅れになる。</p> <p>そして、子どもの数が減少し学校の形が変わってきている。</p> <p>現在、9 年制の義務教育学校が作られ、静岡ではほとんど義務教育学校になる。山ノ内町も 9 年制の義務教育学校になる。そうすると、給食の形も変わり、自校給食を採用するケースが増えるのではないか。だから、20 年後に時代遅れにならないように、今慌てて古い形の給食センターを作るべきではない。</p> <p>今使える立派な給食センターがあるのだから、直して使って学校の形の変化と子ども達の変化を見届けた方がよい。</p> <p>また、国が給食費を補助する等、食育に対する考え方が変わるだろう。20 年後には自校給食がトレンドになるかもしれない。例えば、県内では塩尻市が小学校 8 校、中学校 5 校、9 年制の義務教育学校 1 校で自校給食を採用し、全校に栄養士を配置し地域や子ども達の状況に適した給食を提供している。</p> <p>そして、塩尻市は地産地消を大事にしており、栄養士や調理員が直接農場に行き、そこで学んだ野菜を作る苦労や果物に込められた思いを子ども達に伝えたり、生産者を学校に招いて一緒に給食を食べたりと生産者と消費者の間での交流を深めている。</p> <p>中野市でも同様の取組みは行っていると思うが、農業が盛んな中野市だから、もっとできるように考えて欲しい。</p> <p>また、東京都では自校給食の学校が多いが、埼玉県のさいたま市は全ての市立小中学校 165 校で、自校給食を実施している。そして、栄養教諭を全校に配置して、より細やかな栄養バランスの優れた給食を提供するために、市内のレストランやホテルなどで活躍しているシェフ考案の地場産物を活用した献立を児童生徒に提供している。</p> <p>先日、全国給食週間に合わせて、NHK の教育テレビで子ども向けの番組が放送された。そこで「うちの給食絶対だよ」と子ども達が自慢している映像が流れた。中野市でも給食センターを作る際は、子ども達が自慢できるような給食施設を考えてほしい。</p>
<p>中野市</p>	<p>中野市は地元産のキノコや果実がたくさんあります。現在、給食で使っている米ときのこは 100% 中野市産です。野菜は約 30% 中野市産です。また、季節に応じて提供するリンゴ、プラム等の果実も 100% 中野市産です。</p> <p>今の給食センターは小学生が見学に来て、2 階から調理場を見て教員から食育を学んでいます。今度作る給食センターも同様に</p>

	<p>会議室を設けて、子ども達がそこで試食し食育を学ぶ予定です。</p> <p>食育については、充実していると思います。昔と違い、栄養教諭または栄養士が学校で授業を行い、徹底的に学んでいます。</p> <p>自校給食を実施している例はありますが、人手不足により給食センターを建設する自治体が増えている状況です。最近では東御市が自校給食から給食センターに切替えているようです。</p>
参加者 5	<p>建設地近隣にある消防署は災害時に機能停止しないように移設すると聞いた。なぜ被災する恐れがある土地に給食センターを建てるのか。</p>
中野市	<p>建設予定地はハザードマップ上の浸水想定区域に該当しているところがありますが、現在進行中の千曲川緊急治水対策事業により危険を回避できるのではないかと考えています。</p> <p>また、整備事業が完了した際に、ハザードマップの見直しが行われるだろうという想定のもと、浸水は問題ないだろうと判断しています。</p>
参加者 5	<p>消防は危険な土地だと判断し、別の土地へ庁舎を建てる。一方で、市は治水事業が完了すれば安全だと判断し、この土地に給食センターを建てる。矛盾を感じる。災害が起きないことを願う。</p>
参加者 5	<p>先刻、給食センターが止まるといけないから新設すると所長が説明したが、給食センターを止めるように指導があったのか。</p> <p>今まで、様々な検査や指導を受けて、その度に修繕を繰り返して基準を満たしてきたはずだ。基準を満たしてきたのに、なぜ新築しないといけないのか。</p>
中野市	<p>「給食が止まる」と述べた意図を説明します。</p> <p>施設は問題なくても、施設内の厨房機器や配管に不具合が出ています。フライヤーやお釜が使えなくなると給食を作れなくなるため「給食が止まる」と表現しました。</p>
参加者 5	<p>耐用年数に満たないものは、施工業者で安く直せないか。</p>
中野市	<p>建物の耐用年数は超過していません。一方で、厨房機器の耐用年数は10年から15年です。北部給食センターが築後20年、南部給食センターが築後19年経過する中で調理器具等を修理してきましたが、古い機種なので部品がなく修理できない状況になりつつあります。</p> <p>現在使用している厨房機器を総入れ替えると、厨房機器だけで南部、北部それぞれ約5億5,000万円必要になります。また、10年15年先を見通した時に、児童生徒数が減っていく状況で、2つの</p>

	給食センターを直すのではなく、1つに新設統合して経費を削減し作業効率を上げることが適切であると判断しました
参加者 1	市が新設統合を進める根拠はトータルコストなので、まともな比較表を作って欲しい。現在、公表されている比較表はまともではない。客観的な立場に立って、どちらがいいのか比べられる比較表を作って欲しい。
参加者 2	建物を壊す理由の一つに、建物を壊さないと搬出できない機器があると説明があった。新設する給食センターはどうか。 先刻、ハザードマップの話があったが、消防署は災害時に大事な施設なので、他所に移す必要がある。しかし、給食センターはそこで働く人が避難できればよいので、マニュアルができれば大丈夫という説明だったが、ものすごく乱暴な考え方だ。大丈夫かもしれないが、多くの人が心配している。地下の設備も考慮し、かさ上げして作る考えはないか。
中野市	かさ上げについて説明します。新しい給食センターは設備の更新がしやすい建物にする必要があります。先ほど所長から説明があったとおり厨房機器の耐用年数は15年から20年です。一方で、建物の耐用年数は市で新築する場合は80年と据えています。その間に厨房機器の更新を容易にするために、ほぼ床下の全域に潜れるように設計を進めています。 また、床下の高さは約1.8mで人が立って作業ができる高さにする予定です。この1.8mが洪水に対し多少の対応策になります。また、建物の長期メンテナンスにも配慮した設計を進めています。
中野市	資料1-2の平面図をご覧ください。ボイラー室と書いてある部屋と調理エリアの同じ壁面に扉のような印がありますが、これは今回の改善策の1つで、調理器具を修理交換するために搬出することを想定して、間口の広い搬出入口を設けています。壁を壊さずに調理器具等を搬出入できる見込みです。